

文・藤森ゼミ「青楓」

卒業生から後輩へ、8ページのバトン。新聞ジャーナリズムを学び、3月にキャンパスを築いた文学部・藤森研ゼミ生13人が、ゼミ新聞(タプロイド判・8ページ)を製作し、このほど完成・発行した。

取材から編集まで 4年次生が新聞発行



▲ 校正作業を行う藤森教授と伊原さん、小田中悠紀さん、前頭美樹さん、石神さん、横山みなみさん(左から)

人気作家・雫井脩介さんの思い出に、形あるものを残したいと思い、新聞作りを提案した。新入生にはやりたいことがあつたらしく行動するためのヒントを、在校生には就職活動の心構えを盛り込みたかった」と話す。編集長の伊原豪志さんは「活躍する皆さんから話を聞いて、まだまだ自分の世界は狭いなど感じました。取材だけでなく、見出しやレイアウトを考えたい」と語る。伊原さんは「人の痛みが分かる思いやりのある若者を育てたい」と語る。藤森教授は「ゼミ指導の藤森教授は1面のコラムで、自身の学生時代を振り返り、「青」ともこうだと考え

後輩へ思い込めた8ページ

新聞の名は初夏の若葉を象徴する「青楓」。新聞作りに当たり、「新入生や在校生の大学生活がより豊かになるように」という思いを全ページに込めている。8ページの紙面の圧巻は、各界で活躍する人に対するロングインタビュー。さらに、就労体験記「アルバイトを選ぶなら」。また、ゼミ生のバッグの中身や、お気に入り



たことや疑問に思ったことは自分で行動し、頭をぶつけて、初めて少しわかってくる……」と記している。

ゼミ生たちは、記事の企画、取材から編集までチャレンジした。同紙発案者の一人で副編集長の石神美里さんは「在学中

文・人文学科 社会学優秀卒業論文報告会

優秀卒業論文に選ばれた文学部人文学科社会学専攻4年次生3人が発表する代表論文報告会が1月30日、生田キャンパスで開かれた。優秀卒業論文は、同学科ゼミナールの指導教員が選んだ代表論文の中から大学院生の審査によって決められる。小森田龍生さん(博士後期)がコ



り入れた鈴木敦史さんは、「テーマ要因があるとする世間の風潮を批判した。『大学』と指摘。男性が『粧』の意図を採り、男女の社会的地位や性差に対する独自の主張を展開した。

鈴木さん 失敗恐れず興味を持って
小嶋さん 新たな問題点発見の契機
林さん 自分と向き合った2年間

今年度の代表論文は次批判」と。▽鈴木敦史さん(金井雅之ゼミ)「戦略的行為としての『粧』の有用性」と▽小嶋美緒さん(永野由紀子ゼミ)「現代日本の子どもをめぐる問題現象の捉え方―母性愛神話の

▽鈴木敦史さん(金井雅之ゼミ)「戦略的行為としての『粧』の有用性」と▽小嶋美緒さん(永野由紀子ゼミ)「現代日本の子どもをめぐる問題現象の捉え方―母性愛神話の



結論に導くために2年かけて自分と向き合ってきた。その積み重ねが評価されたことは素直にうれしい。学生おうちに目ぐるからアンテナを張って自分の興味の範囲を広げてほしい」と後輩を励ました。

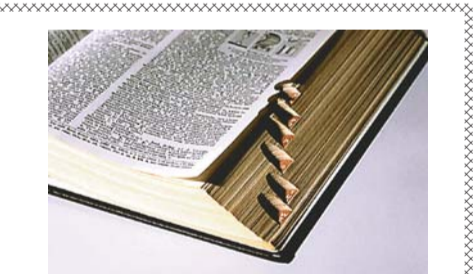
都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

新岡ほのみさん(文4)＝写真右＝が「準ミスねぶた」に選ばれた。インタビューは7面。

外国語のススメ 研究室

ドイツ語

柴田 隆 法学部准教授
中学校に入学した孫に電子辞書を買ってやるのが良いかどうか? という議論が、新聞などでも報道されたのは十数年前だろうか? ということは、現在大学に来ているみなさんは、電子辞書が当たり前だと思っているのかもしれない。「ゆとり教育」のせい、中学校レベルのA語教育でもB語教育でも、辞書を使わせないという傾向もあったようで、大学に来て辞書の「初めてのお使い」という学習者もいたりする。初級、あるいは入門から学習する言語の教員は、例外なしに学習用に作られた「紙の」辞書を薦める。「なんで? 電子辞書、入学祝いにももらったのに」という声も聞こえるが、でも、断固として紙の辞書でなければならない。なぜ? よく言われるの



辞書の話しよう。辞書は、電子辞書は、表示スペースが小さく、紙に印刷された文字より、解像度が低いため、一画面で認識できる情報量が少ない。スクロールしないと、すべての情報を見ることはできない。それに比べると、紙の辞書では、少なくとも学習用の辞書なら、一つの項目が見開き2ページ以上にわたることはない、一瞥すれば、何がどこに書かれているかわかるということだ。「えっ、そんな意味ないじゃん! 最初に書いてある意味(日本語)だけ見れば済むのに!」むむむ、あのねえ、使い方や文脈が違えば、全く意味が異なる言葉もあることを知らないの?」と言っても、あらゆる間投詞を「やばい」とそのヴァリエーションで済ませている方たちには「馬耳東風」「馬の耳に念仏」かな。*全文はLL研究室ホームページで。